

政策番号	8	政策分野	産業・商業
------	---	------	-------

基本方針 京都のまちに脈々と受け継がれてきた匠のわざ，企業のもつ優れた技術力，知の集積拠点である大学など，これまで築き上げてきた「京都力」を生かし，「ものづくり」，「ことづくり」，「ひとづくり」により，京都ならではの産業・商業振興を進める。また，市民の健康と豊かな食生活を維持するため，流通体制の整備を進める。

担当局	産業観光局
-----	-------

共管局	
-----	--

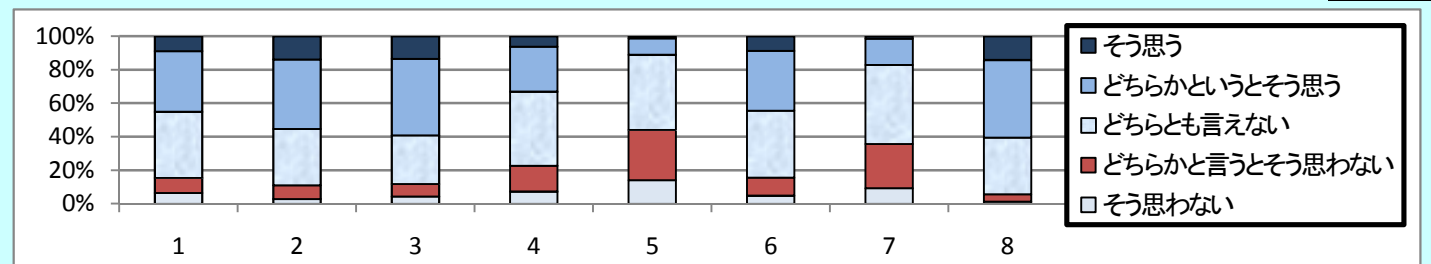
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年度	年度	23年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 製造業における市内総生産(億円)	12,342(-7.8%)	-	-	-	13,387	12,342(-7.8%)	13,031(-2.5%)	-	e
2 京都府の完全失業率(%)	5.6	4	-	-	5.2	5.6	5.1	90.2%	b
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価									d

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年度	年度	23年度
1	京都では，さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。	-	-	b
2	京都では，価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。	-	-	b
3	京都の特色を生かした産業活動が行われている。	-	-	b
4	京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ，元気な商業者が多い。	-	-	c
5	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。	-	-	d
6	京都では，産業界・大学・行政などが連携して，企業の誘致や事業環境の整備を進めている。	-	-	b
7	ソーシャルビジネス(社会的企業:社会問題(まちづくり，少子高齢化，環境問題など)の解決を目的として収益事業に取り組む事業体)が育ってきている。	-	-	c
8	京都の卸売市場は，安全・安心な生鮮食品の提供に役立っている。	-	-	b
市民生活実感調査総合評価				b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	13	16.6%

3 総合評価

C	政策の目的がそこそこ達成されている	年度	-
<p>【客観指標】・京都の経済活動による付加価値の創出状況を表す製造業の市内総生産(平成20年度が最新値)は、平成20年9月の金融危機から日本経済が急速な景気後退に陥ったことなどから、大きく減少した結果、e評価となった。</p> <p>・京都府の完全失業率も、景気の低迷等を反映して上昇し、b評価となった。</p> <p>【市民の実感】・京都の特色を生かした産業活動をはじめとして、さまざまな企業の連関、付加価値の高いものづくり、産学官の連携といった、京都の強みと言える設問には、やや肯定的な回答が多い。</p> <p>・雇用に関する設問は、景気の低迷等を反映して、やや否定的な回答が多い。</p> <p>・ソーシャルビジネスに関する設問は、「どちらとも言えない」とする回答が多い。比較的新しいビジネス形態であるため、支援等を通して周知と浸透を図る余地がうかがわれる。</p> <p>・卸売市場に関する設問は、やや肯定的な回答が多い。食の安全に対する関心が高まる中、公設の卸売市場に対する市民の期待の高さがうかがわれる。</p> <p>【総括】・客観指標はd評価にとどまるが、本市も新たな雇用対策や中小企業緊急資金対策融資の対象拡大等を行った。また、市民の実感はb評価である。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。</p>		年度	-
		年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
				23	
0801	多様で活力ある中小・ベンチャー企業の育成と発展支援	-	-	A	103
0802	産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出	-	-	A	105
0803	京都の強みを生かした事業環境の整備	-	-	A	107
0804	伝統産業の活性化と新たな展開の推進	-	-	B	109
0805	地域の特性に応じた商業振興	-	-	B	111
0806	ソーシャルビジネス(社会的企業:社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む事業体)への支援	-	-	C	113
0807	市民に安心していただける流通体制の強化	-	-	A	115
0808	雇用の維持・確保と新たな雇用創出に向けた取組の推進	-	-	B	117

<今後の方向性>

- ・平成23年3月に「京都市新価値創造ビジョン」を策定し、創業等への支援、企業の立地環境の整備、新規成長分野への支援、産学官の連携促進、伝統産業の新たな展開等を図ることとしている。
- ・平成23年3月に「京都市商業活性化アクションプラン2011」を策定し、歴史文化や観光の魅力を発信する先導的商業、日常の暮らしを支える普段着の商業、環境にやさしい歩いて楽しいまちづくりに貢献する商業、次代の社会の担い手や社会に貢献する産業を育てる商業を目指すこととしている。
- ・平成22年11月、京都市産業技術研究所内に、伝統産業と先端産業の融合を図る「知恵産業融合センター」を開設し、新たな京都ブランドの創出に取り組むこととしている。
- ・平成23年3月に府、市、京都商工会議所、京都工業会と「オール京都」の体制で「京都産業育成コンソーシアム」を設立した。京都産業を担う中小企業の育成を強力に推進し、知恵産業推進や産業育成等のプロジェクトに取り組むこととしている。
- ・平成20年度から新たな雇用対策として、庁内の緊密な連携と、雇用・労働行政を担う国や府との融合を図っている。今後は、平成22年11月に開設したWEBサイト「京のまち企業訪問」の運用等により、雇用の創出を図ることとしている。

政策名	8	産業・商業
-----	---	-------

指標名	製造業における市内総生産（億円）
-----	------------------

担当部室	商工部	連絡先	2 2 2 - 3 3 2 5
------	-----	-----	-----------------

1 指標の説明

市内製造業が1年間に生み出した付加価値の総額

2 指標の意味

「新たな価値をつくる都市」の進み具合を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：経済活動別市内総生産（実質，平成12年暦年価格）における製造業計の市内総生産の実績値
出典：京都市の市民経済計算（京都市総合企画局）

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	12,342(-7.8%)	-	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	19年度	20年度		数値	根拠	
数値	13,387	12,342 (-7.8%)	1,045億円減 (7.8ポイント減)	13,031 (-2.5%)	中長期目標達成の目安となる毎年度の数値及び増減率 ※市内総生産は、本来中長期的な視点で評価すべき指標であるため、毎年度の評価は暫定のものとし、中長期目標の達成状況評価に用いる平成27年度数値が公表される平成29年度に評価を確定させる。 ※毎年度の評価は、平成20～22年度は中長期目標設定時の国の成長率見通し（暦年値）との比較で評価し、平成23～27年度は「京都市新価値創造ビジョン」の目標成長率の達成状況で評価する。	-

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値		14,477億円 (暫定値)	27年度	「京都市新価値創造ビジョン」の成果指標 ※中長期目標設定時に、平成19年度実績値（当時の最新値）に、当時の国の成長率見通し（平成20～22年度）及び「京都市新価値創造ビジョン」の目標成長率（平成23～27年度の年平均成長率2%）を乗じて推計した暫定値

備考
数値の公表時期の関係から、2年前の数値が最新となる。また、最新数値公表時に、過年度数値も遡って修正される。

5 評価基準

最新数値（増減率）の目標値に対する差が
a：0ポイント以上
b：-0.5以上～0ポイント未満
c：-1.0以上～-0.5ポイント未満
d：-1.5以上～-1.0ポイント未満
e：-1.5ポイント未満

6 基準説明

当該指標については、目標達成を a 評価とし、以下0.5ポイント刻みで基準を設定した。

7 評価結果

		23
-	-	e

政策名	8	産業・商業
-----	---	-------

指標名	京都府の完全失業率（％）
-----	--------------

担当部室	商工部	連絡先	222-3325
------	-----	-----	----------

1 指標の説明

京都府域における、労働力人口に占める完全失業者の割合を示す経済指標

2 指標の意味

働くことを希望するすべてのひとが就業できる社会の実現に向けた進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：完全失業者（京都府）／労働力人口（京都府）
「年」計算数値であるが「4 数値」欄では「年度」と表記
出典：総務省統計局「労働力調査」

4 数値

10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 5.6	平成32年度目標値 4	根拠 平成13～19年（いざなぎ景気）の期間中、一番低かった数値並み
----------------------	------------------	----------------	---------------------------------------

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	21年度	22年度		数値	根拠	
数値	5.2	5.6	0.4ポイント増	5.1	平成32年目標達成のために当年達成すべき数値＝平成21年現況値（5.2％）と目標数値（平成32年4.0％）から各年の目標数値を等差的に算出	90.2%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値				根拠

備考	
----	--

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：85%以上～100%未満
c：70%以上～85%未満
d：55%以上～70%未満
e：55%未満

6 基準説明

当該指標については、景気の動向に左右される部分が大きいが、目標値を上回ることも不可能ではないため、100%以上の達成をa評価とし、以下15%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

		23
-	-	b